

茨城 建築 文化賞

第30回



茨城県知事賞「最優秀賞」土浦市立都和小学校
●株式会社 増山栄建築設計事務所



ひたちなか市

〒312-8501 茨城県ひたちなか市東石川2丁目10番1号

電話 029-273-0111 (代表)

URL <https://www.city.hitachinaka.lg.jp/>

面積:99.93平方キロメートル

(平成28年10月1日現在)

人口密度(総面積1平方キロあたり):

1,559.7人(平成29年5月末日現在)

常住人口:155,858人(平成29年5月末日現在)

世帯数:62,670世帯(平成29年5月末日現在)



ひたちなか市長のお話をうかがう

本市の人口はほぼ横ばいで推移しておりますが、世帯数は増加傾向で核家族化が進んでおり、子育てや介護を家族で支え合うことが難しくなっています。本市では地域社会における人と人のつながり、「地域の絆」による支え合いを進めるため、高齢者や子育て世代の交流を促進するサロン活動の運営支援を行っております。一方、地元のサロンにはなかなか最初は参加しづらいという市外から転入された方々もいます。このため、中心市街地に民間企業が所有していた建物を取得・活用し、緑豊かな良好な環境の中、だれもが気軽に利用することができる「子育て支援・多世代交流施設」を整備しているところです。本年10月のオープンを目指しており、2階には、子どもを遊ばせながら育児について相談もできる子育て支援の拠点を設けるほか、1階には生涯学習や青少年団体の活動の場などの市民活動支援機能を集約し、3階は子育て世代や高齢者のサロンが利用できる部屋を備えるなど、多世代の交流を促進してまいります。



中心市街地に位置する整備中の「子育て支援・多世代交流施設」



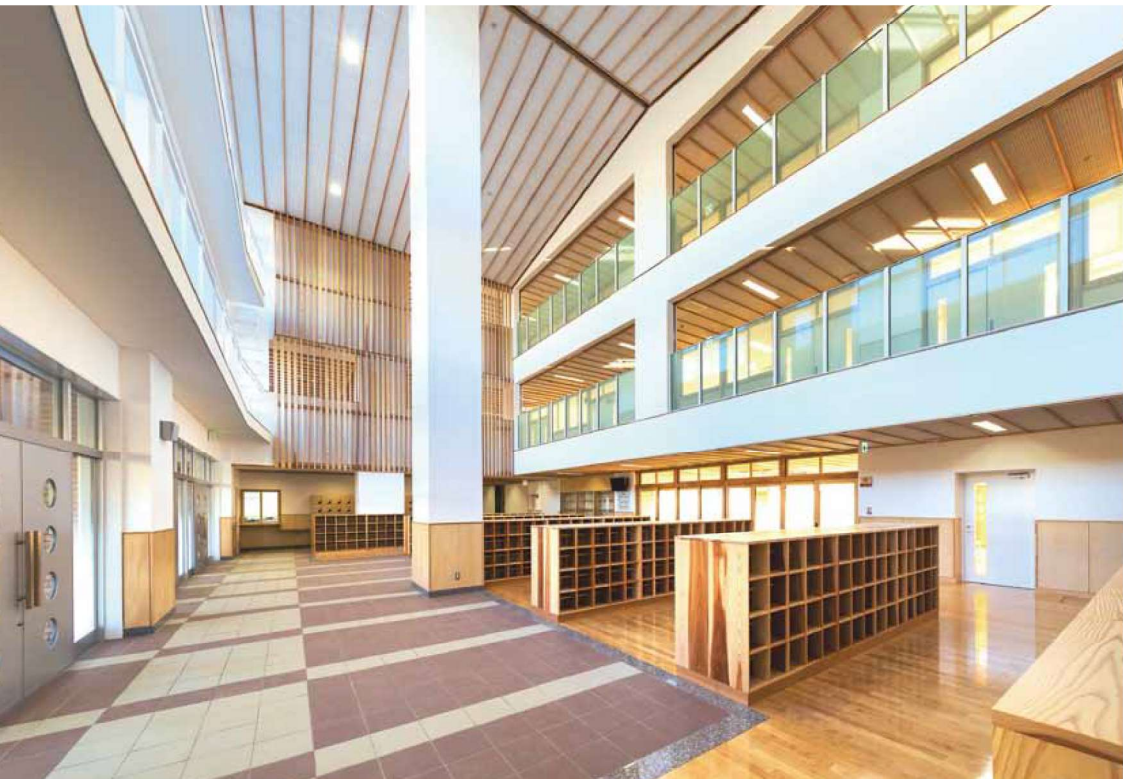
子育て支援センターのイメージ(子育て支援・多世代交流施設)

した学習支援、学童クラブの充実など、若い世代が安心して家庭を築き、子どもを育てていくことができるよう、働く場所の確保とあわせて、子育て支援、教育環境の整備に力を入れて取り組んでいるところです。

おわりに

本市は市民活動が非常に活発で、「市民力」の高さが本市のまちづくりにおける強みの一つとなっています。平成22年4月に「自立と協働のまちづくり基本条例」が市民の手作りでつくりあげられ、市民、行政、議会による協働のまちづくりを進めております。中学校区単位の全てのコミュニティ組織において、地域活動の拠点であるコミュニティセンターの自主的運営が行われるとともに、「まちづくり市民会議」が設置され、子どもの安全確保や高齢者の見守り、災害時の避難や避難行動要支援者への対応など地域それぞれの課題解決に向けて自主的な取組が活発に進められています。今後も地域住民や民間の皆様と連携を図りながら、協働によるまちづくりを推進してまいります。

茨城県建築士事務所の皆様に、おかれましては、日頃から建築を通して本市の景観に関わっていただいておりますので、専門的な知識・技術や高いセンスをいかしてご提案を発信していただければありがたいと思っております。引き続き、本市のまちづくりにご支援と協力を賜りますようお願い申し上げます。



茨城県知事賞[最優秀賞] 土浦市立都和小学校

- 株式会社 増山栄建築設計事務所
住所／茨城県土浦市荒川沖西1-1-4 電話／029-843-6011
- 協力事務所 構造／有限会社 けっさく設計 電気・機械／株式会社 若設備設計
- 建物所在地／茨城県土浦市並木五丁目4826-2, 4830-27
- 建物用途／小学校 ●構造／RC造
- 建築面積／2,306.50㎡ ●延床面積／5,212.58㎡

積極的な木材活用で「木のぬくもり」に触れる、
のびのびとしていてあたたかみある空間を目指した。

創立143周年を迎えた都和小学校にとって、今回が3回目の校舎改築となる。新校舎を既存の体育館とプールに近い、校庭の南側に配置した。これにより仮設校舎を必要とせず、竣工後も既存施設とスムーズな動線で繋がる計画としている。コンパクトな中廊下形式を採用し、静かで落ち着いた南側に普通教室を配置。北側のワークスペースや図書室、3層吹き抜けの昇降口には、柔らかな光を取り入れ、明るくのびのびとした空間を実現した。また上下階のワークスペースを結ぶオープンな階段が、学年を超えた活動やつながりを生み出す。敷地内にあたたかなヤナギを加工したベンチや、茨城県産材を利用した図書室の机や椅子など、子供たちが「木のぬくもり」に触れることができるように、積極的に木材を活用し、あたたかみのある空間を目指した。夏には子供たちがバルコニーの雨水タンクの水を使って育てた「緑のカートン」が加わり、3代目の校舎が「竣工」を迎えた。



古河城出城跡に立地する古河第一小学校において「歴史・文化が漂う緑に包まれた学校」を主旨に、地域住民の意見も取り入れ、歴史の面影や場の記憶を残した地域の核となる学校づくりを目指した。

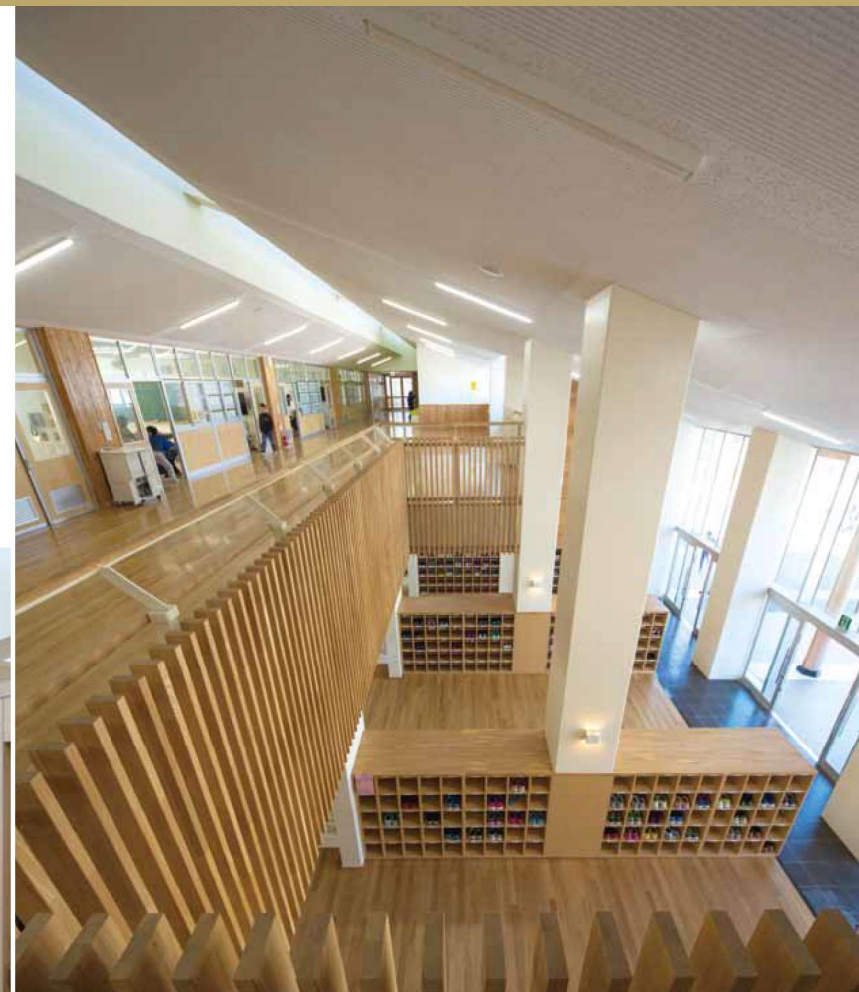
明治37年創立当初のままのレンガ造りの「赤門」を中心に中庭、昇降口を配し高台に校舎棟を整備、西門からは堀跡の名残である敷地の高低差を利用し、石垣の城門のように校舎の下をくぐり中庭へ。記憶にある木造校舎の妻入玄関や日本瓦切妻屋根、

レンガタイル、石積みは周囲の歴史的景観と調和し、良好な景観うろのいのある空間を形成。内部は木を多用し暖かみのある空間とし、昇降口、廊下は、吹抜や天窓により採光・通風を取り入れ広く明るい活動空間、中庭やテラスへの連続性を計画。図書・P.C教室は連携利用、続く多目的室は開放的で明るい空間とし全児童対応の広さを確保、ラーニングゾーンを形成、また古河歴史博物館や渡良瀬川を望み古河らしさを感じる一小を象徴する空間とした。

**地域の核となる学校づくりを目指し、
良好な景観とるおいのある空間を形成。**

茨城県議会議長賞[優秀賞] 古河市立古河第一小学校

- 有限会社 長塚建築設計事務所 住所／茨城県古河市原町4-2
電話／0280-22-2323
- 協力事務所 構造／有限会社 戸田 巧 建築研究所
電気・機械／株式会社 ケーエフ総合設備
- 建物所在地／茨城県古河市中央町三丁目10-1
- 建物用途／小学校 ●構造／RC造一部S造
- 建築面積／4,004.64㎡ ●延べ床面積／6,528.49㎡



第30回
茨城
建築
文化賞



茨城新聞社賞【優秀賞】

下館第二高校普通教室棟

●横須賀・河野建築関連業務共同企業体

住所／茨城県水戸市南町2-1-18アーキビル 電話／029-225-4353

●協力事務所 構造／有限会社 崇建築研究所 電気／川又設備計画 機械／株式会社 菊地設備設計事務所

●建物所在地／茨城県筑西市岡芹1119

●建物用途／高等学校 ●構造／RC造 ●建築面積／1,630.07㎡ ●延床面積／3,840.15㎡



学園は魅力のある学習・生活環境を創出する

本事業は、従前の旧普通教室棟が竣工から40年以上を経過し、構造および機能上の老朽化が進行していたことから、改築を実施したものです。普通教室棟という限られた用途の校舎を建て替える中で、学園全体として魅力のある学習・生活環境を創出するために、3つの提案を試みました。

1 生徒たちの憩いの場である既存の中庭をリノベールし、自然と一体となった潤いのある学園環境を創出。
2 限られた面積を有効に活用し、コンパクトでありながら交流空間や教室廻りの学習スペースを充実。
3 シンプルな佇まいの中で、生徒達の活動が素直に沿道に表出される風景そのものが街づくりに寄与できるような学校づくり。
そして、この3つの提案を、筑西市の財産でもあるつくば山への眺望や、先人が残した芸術文化を生かしながら、この地だからこそできる学校づくりを考えました。



茨城県土木部長賞【優秀賞】

野草舎森の家

●有限会社 吉田建築計画事務所

住所／茨城県石岡市石岡1-1-8 電話／0299-56-3246

●協力事務所 構造／株式会社 シェルター 電気／前川プランニング

機械／NASファミリーデザイン室

●建物所在地／茨城県鹿嶋市大字山之上字広内611番地16外6

●建物用途／保育所 ●構造／木造 ●建築面積／905.69㎡ ●延床面積／895.92㎡

自然と共に子どもたちが生きる家

子どもたちが五感を通じて自然とふれあい、共に生きることを実感し創造性豊かに成長していく園舎を目指して計画しました。園舎と園庭と一体感を持たせるため、緩やかな半円形のカーブを描きながら子供達や園庭を優しく包み込む造形としています。

「テーマ」

1 子供達の健康を第一に考え温かみのある木造園舎とし、可能な限り無垢材や自然素材を用いた職人の手仕事の見える建築とし、また地産

地消及び本物に触れるという意味から、茨城県産の木材を積極的に活用する。

2 自然の陽の光や風をふんだんに取入れた、地域の気候や暮らし方など、土地の風土と調和した空間で子供達が生き生きと日々を過ごせるシンプルな建物とする。

3 園舎園庭が周囲の森の木々と調和した関係性を形成し、その一体的景観が子供達の原風景として、未来に向かう心に刻まれるような場所とする。



【住宅部門優秀賞】ホワイエのある家

●有限会社 時空遊園 住所／茨城県つくば市下栗崎999-7 電話／029-850-6710
●建物所在地／茨城県つくば市 ●建物用途／戸建住宅 ●構造／在来木造 ●建築面積／123.18㎡ ●延床面積／111.81㎡

4種類の高さのある空間を屋根で覆う

広々と広がる水田と筑波山の眺めと4種類の高さの異なる空間を楽しめる家です。田園風景を取り入れる東側の窓は広く開放しデッキとつながりました。南側は道路と住宅があるため、南の窓は採光用の窓にし、西側は坪庭を設け、開放的なリビングとしました。これに対して、敷地の高低差を生かしてエントランスとリビングの間に設けたホワイエは、穴蔵のような、囲われ感のある空間としました。ホワイエとリビングをつなぐ階段は幅広く設け、

また、二階の書斎に上がる階段はストリップ階段にして、性質の異なる空間をつなげました。和室は、リビングから一階へ上がる階段の途中にあり、他と独立した空間にしています。ホワイエの上部は、家族の書斎になっており、無垢杉板の大きな斜め屋根を感じられるスペースとなっています。破風、軒天、天井は同素材にし、天井の窓枠が見えない納まりにし、4種類の高さのある空間を一枚の大きな屋根で覆ったデザインにしました。



【住宅部門最優秀賞】大雄院通りの家

●岩瀬卓也建築設計事務所 住所／茨城県常陸太田市稲木町866番地 電話／0294-72-6121
●建物所在地／茨城県日立市 ●建物用途／住宅 ●構造／木造 ●建築面積／62.58㎡ ●延床面積／109.71㎡

壁・床の仕上げ、吹抜や高窓で中庭と一体的に

大雄院通りは、同地の神社に奉納されている日立風流物（山車と人形）が公開されるお祭り通りです。敷地の周囲は、住宅や商店が軒を連ね建物同士が近接しており、採光確保の観点から居間と隣接する中庭を設けました。この中庭は、祭りの際には大勢の来客を受け入れる場所となり、普段は和室へのアプローチを少し特別にする場所となります。居間には、中庭との一体的な利用を促す工夫として、壁床の仕上げを揃え、吹抜や高窓を併

用しています。また、離れのような感覚で配置した和室には2つの掃き出し窓を設けました。ひとつは中庭や居間に向けて開かれ、もうひとつは将来、隣家の滅築（予定）に伴い広がるであろう小さな庭に向けて開かれています。普段の暮らしにはちょっとした特別感を、祭りの際には賑わいの御裾分けを、数年前の滅築では庭が広がる楽しみを、といった具合で異なる時間や状況に対する感覚が集まって、この家（空間）は構成されています。



【入選】生長の家茨城県教化部 新会館

●清水建設株式会社 一級建築事務所 住所／東京都中央区京橋2丁目1-61 電話／03-3561-2168
●建物所在地／茨城県笠間市東887 ●建物用途／宗教施設 ●構造／木造 ●建築面積／711.84㎡ ●延床面積／678.73㎡

地産地消に徹底した木架構空間を実現

笠間市の豊かな自然の中に建つ、木造平屋の建物である。建設から廃棄に至るまでのCO₂排出量を低減し、地元の森林資源を持続可能な形で活用するために、建物は木造として、敷地特性を生かし、自然通風や自然採光、太陽熱、地中熱などの自然エネルギーを利用して徹底した省エネを図り、更に太陽光発電や電気自動車を活用した蓄電システムなどの創エネ技術を積極的に採用、化石燃料を一切使用せずにゼロエネルギービルを実現した。尚、昨年4

月1日からスタートした建築物省エネ法に基づく省エネ性能表示制度で、日本で初めて第三者機関によるZEBの評価を受けた。外壁材から床材、家具材まで茨城県産材を利用、また新や太陽熱利用など建設資材からエネルギー源まで徹底して地産地消を図り、地球環境、地域貢献に配慮した。構造は方杖架構の独立性や、組立梁など新しい架構により構造立体モデルによる解析を行ない、開放的でダイナミックな木架構空間を実現した。



【住宅部門優秀賞】茨城町丁邸

●a-su建築設計事務所 住所／茨城県水戸市西原3-434西原コーポ2A 電話／029-306-9968
●建物所在地／茨城県東茨城郡茨城町 ●建物用途／住宅 ●構造／木造 ●建築面積／155.69㎡ ●延床面積／132.09㎡

道路側に壁の多い構成で音・視線をコントロール

敷地は東に北関東自動車道、周囲は畑と元は農地だった場所、朝夕と散歩をする方が多く、視線と音のコントロールが大きな問題でした。そこで道路側は壁の多い立面構成とし、高速側からの音を和らげ、光と風はハイスайдから取入れ、内部ではこの壁面が空間に落ち着きと安心感を与えています。道路側はこの壁面により塀を省略し、周囲は対して開いた構成となり街や人との精神的な距離感を縮めることを狙いました。内部構成は天井高を抑え、

天井を板張りとした空間が大小の空間をまとめ、動線となる目線の先は必ず開口とし、外構では樹木を配することで内部からの開放感と外からの視線をコントロールしました。各寝室の東側には開口を設け、朝陽を取り入れ、各寝室が中庭を介した構成はプライバシーの確保とお互いが見える安心を与えています。平面的に張り出したフリールームは、そこへ至る動線も含め家の中の離れとして、小さくても特別な茶室のような空間となっております。



【入選】常陸太田特別支援学校・小中学部棟

●三上建築事務所・葛建築設計室建築関連業務共同企業体 住所／茨城県水戸市大町三丁目4番36号 電話／029-224-0606
 ●協力事務所 構造／株式会社 三上建築事務所 機械／NASファンリティーデザイナー室
 ●建物所在地／茨城県常陸太田市瑞電1032番地1 ●建物用途／特別支援学校校舎 ●構造／RC造一部S造 ●建築面積／2,298.79㎡ ●延床面積／3,043.80㎡



4種類の高さのある空間を屋根で覆う

常陸太田特別支援学校の小中学部棟は、樹齢80年の「瑞桜」を取り囲むようにL字型に配置しています。子どもたちをやさしく迎える校舎を目指し、ゆるやかな勾配の寄棟の屋根をかけ、素焼き瓦で葺きました。

敷地内の高低差を解消するため、L字型の校舎の中央に昇降口を設け、バスロータリーから屋根のある緩やかなスロープでつないでいます。このスロープは「瑞桜」の脇を通るように計画し、「桜坂」と名付

けました。毎日の登下校の時に、子供たちが桜坂から瑞桜を眺めながら四季の変化を感じられるようにしています。

内部は、壁や天井、パーに県産材を多く使用し、温かみのある空間としました。床には、教室のゾーニングごとにテーパーを設け、子供たちが自分の居場所を認識しやすいようにすることにも、明るく楽しい学校生活を過ごせるようにしました。

【入選】茨城育成園

棟を回廊で廻る事で一体感のある全体構成

児童福祉施設における役割が増える一方で、管理のしやすさを求めた施設としての建物が多く家庭的な環境づくりはまだまだ十分だと感じます。そこで、「一般的な家庭と同じ様に子供達が「自分の家」だと感じられる木の空間作りが必要だ」と考えました。

建物はすべての棟が放射線状に配置されていますが、軸線をずらすことで求心性を和らげると共に、中心にやわらかいおにぎり型の中庭を作りだしています。北棟と南棟は



主に居住スペースとして、事務棟は地域交流スペース等に使用する事で居住空間の独立性は確保され、各々の棟を回廊で廻る事で一体感のある全体構成となっています。

リズムカルな外見の特徴である高さを変え連続した屋根は、端部の高さを住宅スケールにまで落とす事で威圧感を無くし内部空間に落ち着いた印象をもたらしています。この様なスケール感の調節や、木造の温かみある空間が家に居る安心感を与える工夫になっています。

【入選】

石渡産婦人科病院

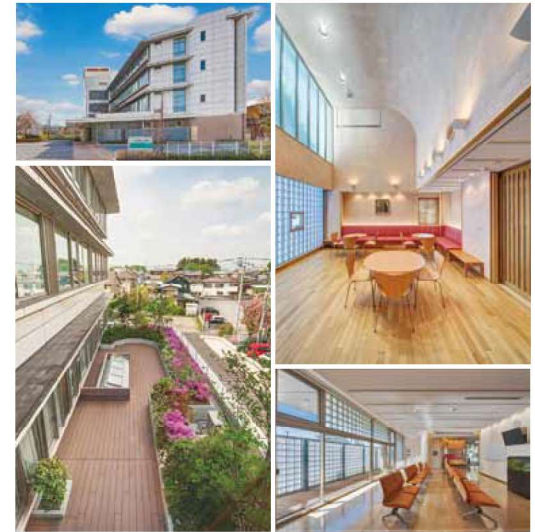
●有限会社 海谷設計事務所 住所／東京都豊島区目白3-7-6 電話／03-3950-4679
 ●協力事務所 構造／株式会社 梅沢建築構造研究所 電気・機械／有限会社 ZO設計室
 ●建物所在地／茨城県水戸市上水戸一丁目14番地21号
 ●建物用途／病院 ●構造／鉄筋コンクリート造 ●建築面積／955.08㎡ ●延床面積／2,896.45㎡

地域の周辺環境、景観上の配慮

西側計画道路完成が成されていない周辺街路を緑豊かな環境の方向へ。敷地境と建物との間に2重のグリーンベルトを入れ、2階の丘にルーファードと6本の桜。寒緋桜、染井吉野など桜を通して、地域の共有の出来る場所に育てる。四季折々の花の咲く和みの空間。心温まる日常をつくり出す。道路完了後も4本の桜は生かされることで、将来も持続する環境となる。明るく、温かな雰囲気のある病院づくり。外光を十分にに取り込み、視線が抜ける空間、

開放感のある室内環境を造り、周囲が緑環境で包まれ、目に優しい場所をつくる。全館木暖房。災害時対応は割れない硝子を使用。地域に密着した安心、安全、患者様に喜ばれる環境を整える。

平面構成／待合ロビーを産科と婦人科に柔かく隔てる。婦人科ロビーにも心理的安心感をつくる。ハイサイドライトからの自然光、間接照明の天井の高く落ち着いた場所とする。外来診療部もこれに対応する。各階構成／病棟階を住まいと捉える。



【入選】道の駅常陸大宮〜かわプラザ〜

●株式会社 協和コンサルタンツ 住所／東京都渋谷区笹塚1-62-11 KECビル 電話／03-3376-3229
 ●協力事務所 構造／株式会社 協和コンサルタンツ・澄川建築事務所 電気・機械／株式会社 協和コンサルタンツ
 ●建物所在地／茨城県常陸大宮市岩崎字北川原717番地1他25棟
 ●建物用途／道の駅(公衆便所・物販・飲食施設) ●構造／鉄骨造 ●建築面積／3,050.612㎡ ●延床面積／2,759.080㎡

ふるさとの風景の美しさを再発見する場所

敷地は久慈川の流れに面する美しい里山に開かれ景観の中にあります。計画では、その立地を生かして、風景と調和する施設となるように考えました。

まず久慈川の流れが施設から見える高さに敷地を造成することにも、久慈川に近づけるように河川敷を親水広場として整備しました。さらに風景と施設の一体感を持つように、その風景を包摂する大きな円弧状に堤防を再整備し



建物をその軸線上にあわせて配置することで風景と関連付けられるようにしています。また、平面においては内外の視覚的な連続性を意識した空間構成をおこない、人の流れを川辺へ自然と導くように計画しています。

これらの、その場所に呼応するようになつとつとつを試みが、地域に普通にあった「ふるさとの風景の美しさを再発見する場所」となるものと考えました。

審査委員 ※敬称略・順不同・役職は平成29年3月現在

小場瀬令二(元国立大学法人筑波大学名誉教授)／小柳武和(国立大学法人茨城大学名誉教授)／長島一道(国立大学法人筑波技術大学産業技術部総合デザイン学科教授)／小沼紀男(茨城県土木部都市局建築指導課長)／鈴木安行(茨城県土木部管轄課長)／海老沢和雄(茨城県土木部都市局住宅課長)／江原秀明(一財)茨城県建築センター理事長)／柴和伸(一社)茨城県建築士会会長)

【リフォーム賞】
大洗町庁舎

IS値0.9突破、使う人の立場に立った補強形態

この庁舎は、昭和46年の竣工であり、40年以上の時間の経過により、経年劣化が見られるようになってきていました。又平成23年の震災を経て、さらなる状況悪化が見られてきたところ。本工事は、大洗町の防災の核となるこの建物を補強し、リニューアルをも施すことにより、さらなる大洗町の発展の手助けとなる施設の設備をしつらえるものです。

耐震改修促進法で定められている耐震指標（IS値）0.6の1.5倍である0.9を突破させます。これは、防災の要となる建物の耐震性を確保する目的です。

IS値を高めるためには、たくさん補強を施す必要があることは言うまでもありません。しかし、一般的なブレース筋交いを「補強だからしかなない」という理由だけで、ランダムに入れてしまっただけでは、使い勝手を損なうだけでなく、見た目にも違和感を持つものになってしまいます。本物件は、補強した1階PCフレーム部分に大きな開口部を設けることにより、リニューアル感を高めた、明るく使いやすい空間を実現しています。入り口付近の鉄板巻立補強した柱に、サインを計画したのもその一例です。



改修前の写真

【リフォーム賞】笠間の家(古民家再生)

●有限会社 吉田建築計画事務所 住所／茨城県石岡市石岡1-8 電話／0299-56-3246
●建物所在地 茨城県笠間市 ●建物用途／一戸建ての住宅 ●構造／木造 ●建築面積／191.42㎡ ●延床面積／199.24㎡

歴史的価値の高い部材活用、住み繋ぐ住まいへ

この建物は今から121年前に、施主の曾祖父によって建てられました。古民家ならではの歴史的価値の高い軸組材や建具材を活かす、現代住宅としての住環境を取り入れ、次世代へと住み繋いでいく住まいを目指して再生しました。建物は壁床を取り払い、地上1.2mまでリフトアップし、基礎を作り、基礎の上に土台を敷き、建物を降ろす手順で行いました。柱や梁、差し鴨居などの主構造は再利用し、外観の意匠は創建当時の



改修前の写真

※建築文化賞の表記は、申し込み時点のものとなります。

茨城建築文化賞の
講評

元筑波大学名誉教授 小場瀬令二

〈第一次審査の経緯〉

3月21日に審査員8名が出席して第一次審査会を実施した。今年の応募作品数は47作品で、30周年記念と言うこともあったのか、今までの中で応募数が最高であった(審査員としては嬉しい限りである)。第一次審査会場に展示された作品を点検した後、一人10票の持ち点で住宅リフォーム、建物の大小を気にせず第一回投票を行った。その結果、1票以下しか獲得できなかった作品については第一回投票で不合格とした。そこで残った作品について議論して、一人5票の持ち点で第二回投票に移った。その結果、4票以上を獲得した6作品が残った。ここで、各作品について議論をすることにも、現地審査候補作品を、4作品に絞るか、5作品にするか、またまた6作品にするかを議論した。その結果、5作品にすることとした。この6作品を対象として第三回投票を行い、

現地審査候補5作品を選定した。この過程で第二回投票で2票以上獲得した4作品を入賞作品とした。この現地審査候補5作品の中には特に住宅応募作品、リフォーム応募作品はなかった。そこでリフォーム賞は、第一次投票で合格している2作品を選定した。住宅賞については住宅応募8作品の中で第一回投票を通過した5作品について、議論をした後、第四回投票を行い、4作品を選定した。その中で住宅の最優秀賞作品を選定するために、第五回投票を行い、住宅最優秀賞1作品、住宅賞2作品を選定した。

〈第二次審査の経緯〉

4月15日に審査員8名で5作品を現地見学した。見学終了後、直ちに第二次審査会に移った。各審査員それぞれ4作品について講評コメントをし、議論をした後、一人1票の持ち点で知事賞から順番に投票に移った。その結果「郡和小学校」が6票を獲得し知事賞に輝いた。その後、再度議論をした後、議長賞の投票に移り、7票を獲得して「古河第一小学校」が当選した。更に、議論をした後に、部長賞の投票に移り7票を獲得して、野草舎保育園が当選した。さらに、茨城新聞社賞の投票に

移り、5票を獲得して「下館第二高校」が当選した。その結果「道の駅は入選に回った。第二次審査では、比較的審査員の意見がまとまっていた、投票結果は明確であった。

〔各作品についての講評〕

知事賞に輝いた「土浦市立都和小学校」は、ワークシッパ等を通して、利用者の意向をきちんとデザインに取り込み、全体として派手なところはないが、コンパクトで使いやすくまとまっており、高い評価を得た。特に、北側グラウンドへの配慮、中廊下への採光や通風の確保、災害時における避難場所となる体育館に接近している家庭科室の配置など細かい配慮など輝く点も多かった。全体的に、デザインとして完成度が高く、審査員の高い評価を獲得した。

議長賞に輝いた「古河第一小学校」は、周辺の歴史や敷地に残された樹木を巧みに取り入れ、かつ敷地の段差などもうまく使いながら非常に質が高く、シブシブ性もある学校としてまと上げることが成功している。ただ、中廊下方式と中庭型の配置であることから、やや廊下が暗いといった点が問題点として指摘がされた。部長賞に輝いた野草舎保育園は非常に単純なプランニング

でありながら、木造で極めて質の高い保育園のデザインになっている。保育園と廊下と園庭の関係もシンプルながら、実際に使い勝手のよい保育園と評価された。ただ、木造であることから、将来のメンテナンスの点や、外観がやや地味過ぎか(和食高級料亭風)という指摘もあり、審査員間でも意見が割れた。茨城新聞社賞に輝いた「下館第二高校」は、既存校舎の建替えという厳しい条件の中で、デザインをまとめている。コクリート打放の仕上げの校舎は力強く、ラーニングスペースが洒落たデザインになっている。ただ、既存校舎が対面しており、それとのデザイン的な調整にもうひとつ工夫が欲しい所であった。

第二次審査の結果は以上であるが、結局一定規模のある、学校建築が上位に名を連ねることになった。作品一つ一つを評価する時に、特に作品の規模、種類、建築家の年齢、建築事務所の規模等は全く考慮していない。若い建築家や事務所が、規模のある施設を設計する機会に恵まれないことから、応募作品の中で、上位の賞を獲得しにくいという問題が審査委員の中でも指摘があった。仕事の発注方式についても、検討が必要だろうが、特に、若い建築家、事務所の奮励を期待したい。